



# 東京農業大学こめプロジェクト研究 発足の経緯

現在、日本の食料自給率は37%

主食である米飯は1960年代をピークに消費量が減少。

ここ30年における急激な農業産業の衰退は日本における食料・環境・健康問題、地域再生とも深く関わっている。

産業としての農業の復活は今後の日本の発展に係わる喫緊の問題であり、本学が取り組むべき課題。



横井初代学長の「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」は本学の研究教育の精神的支柱。

初代学長 横井 時敬

「こめに関する総合的研究を行うプロジェクト構想」  
により本プロジェクトを立ち上げる。



# 東京農業大学こめプロジェクト研究 発足の経緯

こめプロジェクトのトップ(統括)をゼネラルディレクター(GD)とする。

プロジェクト研究課題を3つ設定する。

各プロジェクト研究課題の取り纏め(スーパーバイズ)役をプロジェクトディレクター(PD)とする。

各プロジェクト研究課題を実施する代表研究者をプロジェクトマネージャー(PM)とする。

